

## 東京都立清瀬小児病院での座位保持装置の取り組み

理学療法士 板垣 史則  
理学療法士 大津 慶子

### 1. 高度専門医療と重度障害

東京都立清瀬小児病院（以下当院）は、NICUをはじめ内科、心臓血管外科、外科、泌尿器科、整形外科など小児専門の診療科を有した小児高度専門医療を提供する病院です。全国的にも、小児病院の数は多くないため一カ所の小児病院が貢献する地域は広いと言えます。当院も東京都の範囲に止まらず広い地域から患児が集まり、一般の小児科では対応が難しい疾患に、先進技術を駆使し治療に当たっています。一昔前では助からなかった患児が高度専門医療の進歩によって治り元気に退院できることも多くなりましたが、辛くも命は取り留めたのですが最重度の身体障害を抱えてしまった患児も多くいます。そのような患児の多くは生命維持装置の管理を必要とし家庭にもどることもできないでいます。患児の両親の中には、自分たちや周囲を責める気持ちと精神肉体的な現実的な負担、将来が見えない不安感が募るために家庭が崩壊してしまう場合すらあります。我々は、最重度の障害を抱えてしまった患児に積極的に接して、両親と一緒に取り組む姿勢が大事だと認識し、両親が障害を受容し自信を持って子供に接することができるよう援助しています。

### 2. 病棟での姿勢保持の重要性

一日中ベッドで過ごさねばならない最重度の患児は体動が少なく、仰臥位で図1に示すように姿勢を固定している場合が多くみられます。ベッド上では、タオルやクッション材を使用してポジショニングを工夫していますが、変形の進行を阻止するのは困難です。特に気管切開をしている患児を腹臥位にさせることは高いリスクを伴い難しいことが多いです。このような場合に座位保持装置の適応を検討します。病棟の生活の中で座位保持装置を溶け込ませるには、家庭ばかりがナースの理解が大事です。当院では、関節拘縮や変形に合わせて作成できる発泡ポリウレタン性のモールド型座位保持装置を多く処方しています。作成時に座位の目的をよく検討し、座位保持装置を載せる外枠の機能を考えます。例えば移動用であれば車椅子、ベッド用であればリクライニング機構を備えたイレクターパイプ等です。座位保持装置を使用開始すると、いままで寝ていた時と違って病棟スタッフの患児に対する印象が大きく変化します。当院は、養護学校を併設しておりベッドサイドへの訪問授業も行っています。座れるようになることでベッドから離れて授業を行う試みも出てきます。



図1 背臥位の姿勢

また、退院後の生活の見通しも出てくることもあります。

### 3. 作成事例

身体障害者手帳を取得してから座位保持装置の作成を計画します。次に作成したケースの紹介をしたいと思います。

写真1に示す患児は、小人症の13歳の女兒で喉頭軟化症に起因する無酸素性脳症で弛緩型四肢マヒとなり、10年近く人工呼吸器管理が続きほとんど寝たきりとなっていました。人工呼吸器が外れ、車椅子での移動が必要になりました。本児を直接車椅子に座らせることは姿勢を崩してしまうので難しく、そこで座位保持装置（舟木義肢製；FCクッション）とその座位保持装置を専用に乗せる車椅子（日進製）の作成を計画しました。写真1は採型時の状況で、四肢の屈曲拘縮や気管切開、頸部に対して頭部が大きく重いなど座位保持を困難にする要因をかかえています。体全体が前にずり落ちないように体全体をやや寝かせ内転パッドで骨盤をサポートさせました。また気管切開のカニューレを刺激しないようにヘッドレストに配慮しながら型取りしました。写真2ができあがった座位保持装置と専用の車椅子です。専用の車椅子はこの座位保持装置の適合を確かめて作りしました。車椅子にはリクライニング機構と折り畳み機構を取り入れました。完成後の使用状況は2時間を限度として使っています。今まで病棟から出ることはほとんど無かったのですが、訪問授業で病棟外に頻繁に出る機会ができました。写真3は教師と一緒に院



内の公園に散歩している時です。車椅子に座るとリラックスして寝てしまうこともあり移動の簡便化は達成できたと評価しています。

このケースに作成した座位保持装置はモールド型で、シート面が自分自身の体の形で正確に採型できるメリットがあるばかりか、訓練時の座位姿勢保持のハンドリングが、そのまま椅子の形になります。当院のように気管切開していたり重度の呼吸器障害を抱える患児にとっては頭部、頸部、上肢帯、胸郭などのアライメントが大事なので、より適応する座位保持装置と言えます。しかし成長への対応が困難（多少修正できますが）で、通気性が素材にないという欠点があります（通気口を背もたれに開けていますが）。座位保持装置は採型が重要なのですが、私自身は使用開始後の使用者の訴えに対して適切な対応を行っていくことが、更に大事な点と考えています。それ無しには、どのように良い採型ができた座位保持装置であっても使ってもらえなくなってしまうからです。



写真1



写真2



写真3